

# ロイヤルファームのご紹介

## はじめに

有限会社ロイヤルファームは、雪印種苗株式会社  
のグループ企業の一員として、雪印種苗(株)のホーム  
ページでもご紹介いただいております。

しかし、トピックスでのご紹介のため、もう少し  
詳しい内容を知りたいとの要望も入っており、一般  
の方々にもご理解いただけるよう、ここでは、Q&  
Aスタイルでその概要をご紹介させていただきます。

**Q1：ロイヤルファームは何をする会社ですか？**

**A：**肉用牛の素牛を導入（購入）し、肥育（預託  
生産）を行い、肥育牛の出荷、枝肉販売まで  
を一貫して行う会社です。

**Q2：素牛はどこから導入するのですか？**

**A：**ホルスタインの雄子牛を集め、素牛として育  
成する専門牧場があり、ロイヤルファーム  
は、それらの育成牧場と提携し、品質の良い  
素牛を安定して導入（購入）するよう努めて  
おります。

**Q3：肉用牛の種類はどうなっていますか？**

**A：**ホルスタイン去勢牛が全体の70%強を占め、  
次いで、ホルスタインの母親から黒毛和種を  
父とし、産まれてきたF1牛（交雑牛）が20  
%弱、黒毛和牛もわずかながら飼養してあり  
ます。

年間、7千～8千頭を飼養し、その内、6  
千頭前後を順次出荷し、枝肉販売を行って  
おります。



写真1 自動哺乳機でミルクを充分飲んでます



写真2 きれいな敷料、ゆったり育ちます



写真3 提携育成牧場における飼養管理の確認

Q 4 : **なぜホルスタイン去勢牛が多いのですか？**

A : 後ほどお話しますが、この事業のもとをたどると、雪印乳業株式会社の畜肉事業に到達します。

酪農畜産の現場では、子牛が生まれ、牛乳が生産され、産まれてきた子牛の約半数は雄牛です。その雄子牛を肉資源として有効に活用し、酪農生産者の収益改善にも役立てることを願い、畜肉事業がスタートしております。従って、その原点は、乳用雄子牛の有効活用にあったといえます。

我が国の肉用牛の飼養総頭数は、平成18年2月現在、2,755千頭で、そのうち、乳用種肉用牛（ホルスタイン種+交雑種）は38%を占めています。

Q 5 : **畜肉事業のスタートはどのようなかたちでしたか？**

A : 雪印乳業(株)が中心となり、その後、雪印食品(株)、雪印種苗(株)が加わり、グループ企業がそれぞれの事業領域における特色や持味を發揮し、総合肉牛供給事業へと展開してゆきました。

多い時は、年間1万5千頭を出荷し、枝肉～精肉～加工品販売がなされておりました。

Q 6 : **ロイヤルファームは、何時、誕生したのですか？**

A : 平成13年2月26日有限会社ロイヤルファームが設立登記されました。上記、グループ畜肉事業の受け皿となり、4月1日より、雪印乳業(株)から全面的に事業を継承し、今日に至り、現在、丸5年を経過しております。

スタート時の出資者は、雪印種苗(株)、雪印食品(株)、飼料・家畜輸送会社（5社）、預託生産者（32名）、本社は青森県十和田市、出張所は、道南の森町におき、その周辺に、預託生産牧場が集中しております。また、数は少ないのですが、宮城県、千葉県にも預託牧場をおいております。

Q 7 : **「ロイヤルファーム牛」の特色は？**

A : 素牛の育成から、肉用牛としての肥育まで、一貫して、雪印種苗(株)の配合飼料を給与しており、製品の開発も共同で進めております。その優れた品質がおいしい牛肉の生産に役



写真4 道南エリアの預託生産牧場の皆さん



立っております。

食の安全・安心志向の高まりのなかで、飼料添加物や動物医薬品に極力頼らない飼養管理を目指し、預託生産者と連携し、快適な環境づくり、衛生管理の徹底を推進しております。

男性社員8名は、全て、雪印種苗(株)からの出向で、技術系の人材が中心となり、預託生産牧場の巡回指導に重点をおき、安全・安心の確認や肥育成績の向上を目指しております。

**Q 8 : 生産された牛肉は、どのように販売されていますか？**

A : 一例をご紹介しますと、ロイヤルファーム道南出張所が手がけた製品の多くは、(株)アイマックコーポレーション(仲卸)へ販売され、「市民生活協同組合ならコープ」にも供給されています。

「ならコープ」さんでは、昨年より、新しい商品政策に基づく「産直産品」の見直し作業を進め、本年3月、『ロイヤルファーム牛』は、第一号の産直指定を受け、提携協定を締結いたしました。

担当理事さんや会員の皆さんから、牛が飼養されている環境や牛舎を是非見たいとの要望が多く、秋には、預託生産者との現地交流会もセットされています。

「産地直結」をモットーに、消費者の皆様には生産の現場を見ていただき、ビジネスの更なる発展と信頼の醸成に努めてゆきたいと願っております。



写真5 預託生産牧場(ペンケル牧場)の全景



写真6 順調な増体・肥育が進んでいます



写真7 「ならコープ」との産直提携協定締結式

**Q 9 : その他の販売ルートは？**

A : 枝肉の販売に当たっては、その後の商流において、『ロイヤルファーム牛』を一つの銘柄として取り扱っていただけるお客様を大切にしていきたいと考えております。

しかし、現状では、原材料ベースでの供給先も多く、できるだけ前者のウエイトが高まるよう努力し、お客様との連繋による商品開発も推進したいと思っております。

**Q10 : ロイヤルファームの活路は？**

A : ホルスタイン去勢牛を肉用牛として肥育し、おいしい牛肉に仕上げるには、自然環境に恵まれた北海道や東北を舞台に、優れた配合飼料、良質な粗飼料が必要であり、これらは、雪印種苗(株)との連繋が大きく機能しております。更には、長年に亘る預託生産者の経験や卓越した技術も生かすことができ、それらが、ロイヤルファームの強みであり、誇りと

するところです。

一般的な消費者は、「安全で安心、安定供給」され、価格的にも手の届きやすい廉価な牛肉を望んでいます。黒毛和牛のように、「高品質・高価格」を目指す路線もありますが、ロイヤルファームは、乳用種肉用牛を中心に、付加価値を付けることに邁進して行きたいと思っています。

米国からの牛肉輸入が再々開されましたが、安全・安心はもとより、食味でも負けない、おいしい牛肉の安定供給を目指して参ります。

**Q11：有限会社のままで進むのですか？**

A：新会社法が施行され、旧来の有限会社は、株式会社への移行が原則となり、有限会社で存続させる場合も、定款の修正などが必要となってきました。

ロイヤルファームは、雪印グループを中心に、預託生産者の皆さん、飼料・家畜輸送会社の出資を得て設立された会社であり、現状では、有限会社のままで進んでゆきたいと思っています。

会社の資本金は1千万円、平成16年度の売上高は、24.45億円、平成17年度には累積損失も解消できました。

**Q12：ロイヤルファームという社名は何に由来するのでしょうか？**

A：社訓である、信頼、創意、活気、適応、絆、に該当する英単語の頭文字をつないで『ROYAL』更に、農場の『FARM』でつなげております。

R = 信頼 = Responsibility

O = 創意 = Originality

Y = 活気 = Youth

A = 適応 = Adaptation

L = 絆 = Linkage

情熱と強い絆のもとに、環境変化に適応し、活気と誠意に満ち、信頼される『ROYAL』の名称に相応しい「品格ある地域企業」を目指して参ります。

**まとめ**

会社設立の初年目に、国内における牛海綿状脳症（BSE）の初発生に遭遇し、牛肉の需要が大きく落ち込み、価格も低迷し、加えて、業界の不祥事なども重なり、大変厳しいスタートとなりました。

しかし、安全・安心を保證する手だての一つとして「全頭検査」が導入され、生産現場まで遡及できる「牛肉トレーサビリティ法」も施行され、今や、日本のシステムは諸外国と比較し、格段に精度が高く、国産牛肉の評価や信頼が高まってきております。

ロイヤルファームの経営は、上記のような厳しい5ヵ年を経過する中で、ここ直近の好調な枝肉相場にも支えられ、累積損失も解消し、今後に向けて、質的な基盤も固めることができました。

国際競争の中で生き残るには、WTO交渉の帰趨や、想像もつかない困難が多々待ち受けております。しかし、ある面では、日本の農業・食料に係わる全ての分野が抱えた課題でもあります。

有限会社ロイヤルファームの設立理念は「自然循環有畜農業への貢献」であり、環境保全や家畜福祉に配慮し、最終的には、おいしい国産牛肉の安定供給を使命とし、素牛が供給される酪農経営、粗飼料や敷料が供給される稲作経営、堆肥の販売先となる畑作・園芸経営等と連携を深め、業界でのお引き立てもいただき、会社の更なる発展を目指す所存です。

皆様のご理解とご支援を賜れば幸いであり、「ロイヤルファーム牛」のお引立てを心からお願い申し上げます。



写真8 『ロイヤルファーム牛』（ならコープ店舗）